市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－①	座間味村海域安全隊事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3－(12)-ア
					観光リゾート産業の振興
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24年～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

座間味村内の3ビーチ（古座間味ビーチ、阿真ビーチ、北浜ビーチ）において、観光客が増加するシーズン（GW～夏季）の海洋事故防止及び安全確保を図るためライフセーバー員等を配置する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,000	10,000	15,668	12,000	16,201
	(b) 予算現額	10,000	10,000	7,500	12,000	16,201
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 8,168	0	0
	(d) 繰越額	－	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	10,000	10,000	7,500	12,000	16,201
B. 執行済額		10,000	10,000	7,030	12,000	15,925
うち交付金充当額		8,000	8,000	5,624	9,600	12,739
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	93.7%	100.0%	98.3%

予算の状況の説明

不用額276千円については、委託事業者の見積もり金額が当初予算より低かった為。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
ライフセーバー員等の配置（6名） （7月、8月　8名） ・古座間味ビーチ2名 ・阿真ビーチ2名 ・北浜ビーチ2名 （7月、8月増員2名）	目　標	（5月～10月常駐配置）	（実施）	（GW期間 7月～10月）	（GW～10月末 常駐配置）
	実　績	4月26日～11月常駐配置	一部実施	4月24日～10月31日配置	4月25日～10月31日配置
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

4月25日から10月31日まで古座間味ビーチ、阿真ビーチ、北浜ビーチに2名（計6名）を常駐配置した。また、7月、8月は遊泳客数が非常に多いため、2名増員し8名体制でビーチ監視を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
海水浴客等の海洋事故防止と安全確保	目　標	（　）	（3ビーチライフセーバー配置）	（海洋事故防止と安全確保）	（海洋事故防止と安全確保）	（　）
	実　績		5/2～5/6 8/1～10/31 配置	実施	実施	
死亡事故：H28年目標0件 （H27年度1件）	目　標	（　）	（　）	（　）	（0件）	（　）
	実　績				0件	

進捗状況説明

村内3ビーチ（古座間味ビーチ、阿真ビーチ、北浜ビーチ）において平成28年4月25日～10月31日の間、水難救助員、ライフセーバー等を配置し、海水浴客の海洋事故防止と安全確保を実施した。
事業実施期間中の死亡事故は0件と目標を達成できた。

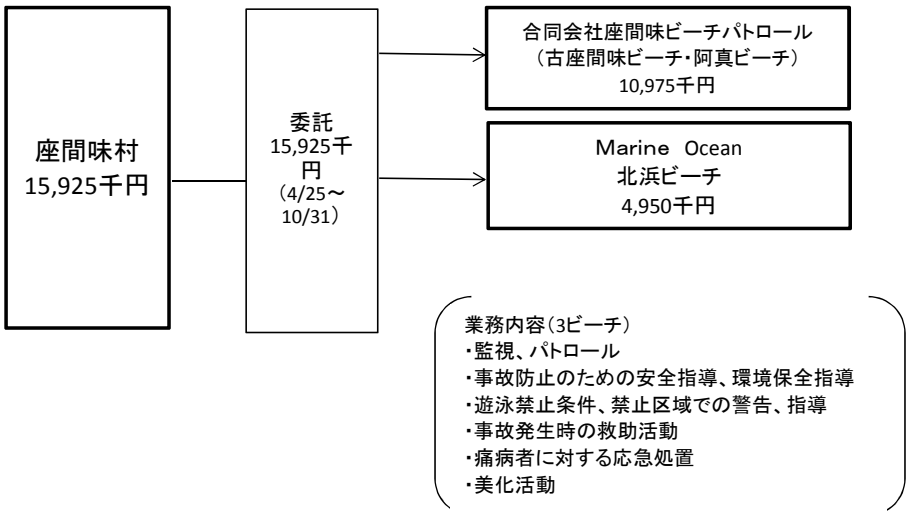
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	GW時期から村内ビーチへ事故防止と安全確保のため昨年度に引き続きライフセーバー員を配置した。（4月末から10月末までの常駐配置） 国立公園に指定されたことから観光客が増加し、ライフセーバー等の増員を行い対応したが、場所によってはサンゴの破壊等が見受けられたので、ライフセーバーによる遊泳客に対しての入水前の安全確認やサンゴへの配慮等の周知を徹底し、今後も引き続き安全安心な海水浴をPRをしていく必要がある。	水難救助員、ライフセーバー等の有資格者が全国的にも不足している為、村内での人材育成が必要である。 観光客が増加し、安全確保（海難事故ゼロ）のためには、ライフセーバー員の質の向上および、人材確保・育成が必要である。 配置期間中は入水前に安全確認やサンゴ等への環境への配慮等きめ細かな対応、ルール策定を環境省と連携して行っていく必要がある。

今後の取り組み方針

H29年度も引き続き水難事故ゼロを目標に、関係機関と連携し人材の確保及び水難救助講習会などを開催し人材の育成に努め、より安心安全な海水浴場にするための体制構築を図る。
また、サンゴの保護のため観光客へ村営船舶での張り紙やHP等で事前に周知し引き続き入水前の環境への配慮の指導も行うことで、保全しているサンゴの保護にもつなげることとする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,925	15,925	12,739	3,186	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は資格等で選定しており、また水難救助という特殊性から妥当であったと考えている。 ○期間、人数から鑑み適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－②	座間味村がんばる観光支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3－(12)-ア
					観光リゾート産業の振興
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24年～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	観光客誘致とリピーター確保のため、既存イベントの強化拡充及び県内外周知活動、県外水族館等での誘致活動等を実施する。				
実施方法	□直接実施　■委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	14,227	15,000	29,674	17,000	16,700
	(b) 予算現額	14,227	8,119	29,674	17,000	16,700
	(c) 増減額 (b-a)	0	6,881	0	0	0
	(d) 繰越額	－	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	14,227	8,119	29,674	17,000	16,700
B. 執行済額		14,227	8,119	28,397	11,823	9,960
うち交付金充当額		11,381	6,495	22,718	9,458	7,967
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	95.7%	69.5%	59.6%

予算の状況の説明：不用額6,741千円について、イベント（補助事業）では天候不良により中止になったイベントがある等、各補助確定額が当初より減額した為。県外PR事業（委託）については、当初予定していた2箇所のうち１箇所の開催を見送った為。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
各種イベントへの支援	目　標	（　イベント支援5件　）	（　イベント支援　）	（　　）	（　　）
	実　績	イベント支援3件	イベント支援		
県内外PRイベントの実施	目　標	（　イベント実施2箇所　）	（　イベント実施　）	（　　）	（　　）
	実　績	イベント実施2箇所	イベント実施		

達成状況説明：各種イベントの支援については慶留間祭り及びアイラブ座間味は台風の影響による中止となった。
県外PR活動として、茨城県の大洗水族館１箇所でパネル展を実施、１箇所開催を見送り目標が達成できなかった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
サバニレース：参加42艇（720人）	目標		700人	40艇 700人	42艇 720人	
	実績		702人	41艇 714人	39艇 720人	
ヨットレース：参加艇35艇　500人	目標		350人	35艇 500人	35艇 500人	
	実績		365人	35艇 504人	45艇 600人	
座間味島祭り参加者増、周知強化（850人）	目標		500人	800人	850人	
	実績		511人	823人	760人	
ホエールウォッチングフェスタ　7000人	目標		12000人	7000人	7000人	
	実績		14873人	13494人	13950人	
県外水族館等でのPR活動の実施	目　標		（　4回　）	実施	実施	
	実　績		2回 東京都（しながわ水族館）兵庫県（須磨海浜水族園）にて開催	実施	実施	

進捗状況説明：イベントを充実・拡充し開催したことにより、観光客及び参加者等の増加がみられ、各イベントの目標数値もおおむね達成した。また、県外PR活動として茨城県大洗水族館にてパネル展を実施した。
座間味島祭りは台風の影響により2週後の予備日に開催したことによる参加者の減少が見られ目標達成には至らなかった。

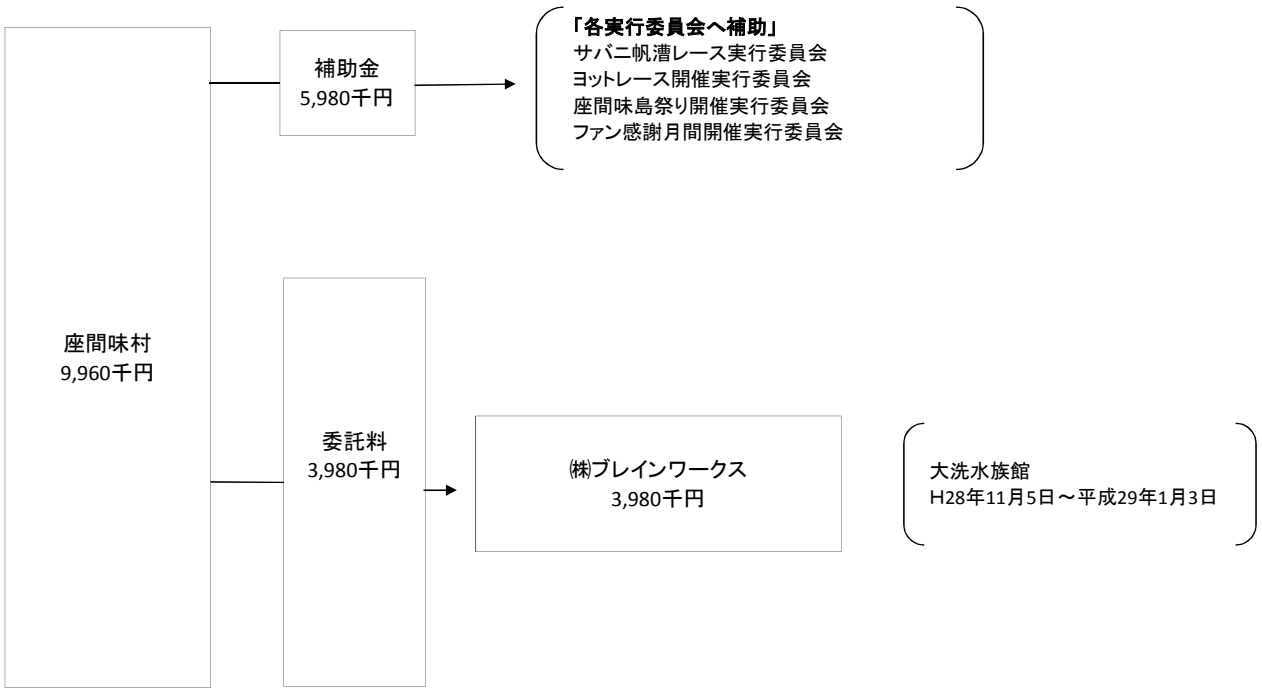
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	誘客のために既存イベントの拡充、県外PR活動の実施を行った。 アイラブ座間味・慶留間祭りについては、台風接近にともない中止となっている。 イベント広報についてはSNSを活用し、効果的に広報できた。 県外PR活動については、ターゲットを絞っているため、様々な地域での開催も視野に入れる必要がある。	各種イベントに関しては、誘客のための広報宣伝方法を紙媒体だけではなく、引き続きSNSなどでの紹介を強化することで、観光客の増加につなげる。 補助金に関する説明会を開催し、各イベント実行委員会への周知を徹底する必要がある。（補助金の執行がスムーズでなく支払い等が滞る場合が見受けられる為） アイラブ座間味・留間祭りのように天候等で中止する恐れがある場合は延期日を設ける等の事前策を検討する必要がある。 県外PR活動については、地方都市での開催も含め検討していく。関西圏、関東圏だけではなく、様々な地域を視野に入れ、広く座間味村を知ってもらう。 開催予定の水族館との調整に時間を要し開催を見送ることがないようできるだけ早く事業に着手する。

今後の取り組み方針

イベントについては、引き続き各種広告物の多言語化によるインバウンド強化および広報宣伝方法を紙媒体だけではなく、SNSなどでの紹介を強化し観光客の増加に向けて継続していく。
県外PR活動については、関東、関西圏の水族館を中心に取り組んできたが、幅広い層をターゲットにPR活動を行い、誘客に繋げる。地方都市を含め様々な地域を視野に入れ検討する。
イベント開催予定施設との調整を早めに行い事業を遂行できるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,960	9,960	7,967	1,993	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○県外PR委託事業は本村観光大使が所属する県外事業者と随意契約をし、企画運営において、座間味村、及び県外の事に精通している観光大使がかかわることで、本村に見合ったPRになり適切であった。 ○予算規模は作業規模に見合った範囲内で設定しており妥当である。 ○受益者である各イベント実行委員会は3割以上負担しており事業内容や事業目的から判断して妥当であると考える。 ○費目、使途については清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③	座間味村観光受入拠点事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3ー(12)-ア 離島の特色を生かした産業振興と新たな展開
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24年～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	外国人を含む観光客の誘客と満足度向上を図るため、村の観光の総合窓口となり様々な事業を実施する観光協会へ支援を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	20,000	19,320	19,755	16,000	14,252
	(b) 予算現額	10,000	13,770	19,755	16,000	14,252
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 10,000	▲ 5,550	0	0	0
	(d) 繰越額	ー				
	A. 計 (b+d)	10,000	13,770	19,755	16,000	14,252
B. 執行済額		10,000	13,770	19,000	13,489	11,372
うち交付金充当額		8,000	11,016	15,200	8,061	9,097
次年度繰越額						
執行率 （%） (B/A)		100.0%	100.0%	96.2%	84%	79.8%

予算の状況の説明：不用額2,880千円については、台風等の影響により予定していた講師の日程調整ができず、スキルアップ講座(宿食事メニュー）が開催出来ない等、報償費、旅費交通費が当初予定より実績が減額した為。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
観光案内所開設365日（台風時等閉鎖）	目　標	（　365日　）	（　365日　）		
	実　績	362日 暴風警報時閉鎖	365日 暴風警報時は電話対応のみ		
イベント等における観光客誘客PR活動年4回	目　標	（　3回　）	（　4回　）		
	実　績	4回実施	5回実施		
観光事業従業者向けスキルアップ講座 宿食事メニュー講座　8回 ノルディックイントラ養成　1回 心肺蘇生講習会　1回	目　標	（　開催　）	（　10回　）		
	実　績	未実施	3回		

達成状況説明：
・案内業務については年中無休で実施し、エコツーリズムガイド育成講習、赤十字救急法基礎講習会、ノルディックウォーキング講習会を開催した。また、村内事業者の質の向上に向け昨年に引き続き、村内民宿事業関係者を集めた意見交換会を開催し現状課題を話し合い質の向上について取組事例等を紹介した。各種講座について、ノルディックイントラ養成講座、心肺蘇生講習会については当初予定通り開催したが、宿食事メニュー講座については連携不足により開催できなかった。
・県内外の各種イベント（沖縄国際映画祭、離島コンテンツフェア、ソニーアクアリウム、モンベルフレンドフェア、ツーリズムEXPOジャパン）へ参加し誘客PR活動を5回実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
観光案内所利用者数　延べ9万人（H27年度8万5千人）	目　標	（　）	（　8万人　）	（　9万人　）		（　）
	実　績		9万5千人	9万5千人		
誘客目標　10万2千人	目　標	（　）	（　9万5千人　）	（　10万2千人　）		（　）
	実　績		10万2千	10万3千人		
観光事業従業者向けスキルアップ講座開催 ・宿食事メニュー講座8回　参加者各10名 ・ノルディックイントラ養成1回 イントラ5名　補助イントラ10名 ・心肺蘇生講習会1回　参加者30名	目　標	（　）	（　）	（　10回・125名）		（　）
	実　績			3回・60名		

進捗状況説明：
・年中無休の観光案内業務を実施し、国立公園化以降、増え続けていた入域観光客数及び案内所利用者数が大きく伸び過去最高を達成した。
・観光事業従事者向けスキルアップ講座については、エコツーリズムガイド育成講習（15名）、赤十字救急法基礎講習(25名)、ノルディックウォーキング講習会（20名）を開催、当初予定していた宿食事メニュー講座については、調整が取れず開催できなかったため目標不達成となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	増加する観光客の満足度、利便性向上のため、窓口での案内業務を行った。 国立公園に指定され、観光客が増加する中、今までの欧米系観光客を含め、アジア系の旅行客も増加しており、引き続きインバウンド受入れ体制（窓口案内業務及び村商工事業者）の更なる強化が課題となっている。 冬場（閑散期）に関しても木エールウォッチング客が増加しているが、海上時化時の船舶欠航などの対策も必要となっている。	引き続き、増加するアジア系観光客も視野に入れ、村全体の受け入れ体制の強化及びパンフレット、チラシ等含め5ヶ国語での案内表記を検討。更に周知充実を図る。 また、船舶欠航時の観光客への案内業務や空路との取次案内の多言語化が必要となっている。

今後の取り組み方針

年中無休で丁寧な観光案内業務を継続すると同時に接遇の向上に取り組み、、インバウンド受入体制の強化のため積極的にアジア系講座を実施することで、事業者の意識と質を高める。また、閑散期（冬場）の観光客誘致のため同協会だけではなく地元観光事業者及び旅行会社等と積極的に意見交換を行い、アンケートによる意見も取り入れ開発する必要がある。
また、お土産品や飲食面での強化が必要となっているため、行政や商工会等との連携を推進し観光客の満足度強化に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,636	11,372	9,097	2,275	1,264

座間味村
12,636千円
→
補助金
11,372千円
→
一般社団法人
座間味村観光協会
11,372千円

・窓口案内業務（年中無休）
（案内、電話対応、メール対応、）
・情報発信（HP等、マスコミ、メディア対応）
・県内外PRイベント参加

協会負担分（交付対象外経費）
1,264千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業目的を達成するに当たり、村内においては当法人しかなく妥当である。 ○事業内容と予算は適正な規模であった。 ○受益者である観光協会は総事業費の約2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	座間味村美ら島づくり花の森整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－（6）－イ 花と緑あふれる県土の形成
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24年～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	第Ⅲ章　10－1

事業内容	国立公園である本村の自然を生かした魅力ある観光地形成と集落内の景観促進のため、座間味・阿嘉・慶留間島において植栽整備を行う。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,602	20,541	24,000	44,000	34,000
	(b) 予算現額	10,602	20,541	24,000	44,000	32,000
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	▲ 2,000
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	10,602	20,541	24,000	44,000	32,000
B. 執行済額		10,500	20,290	23,981	43,960	30,941
うち交付金充当額		8,400	16,232	19,184	35,168	24,752
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		99.0%	98.8%	99.9%	99.9%	96.7%

予算の状況の説明：不用額1,059千円は委託費及び備品購入費の入札残によるものである。
予算の減額については、当初予定していたフォークリフトの購入を2台から1台に変更したことによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
村全域サイン整備工事	目　標	（　整備工事　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	整備工事完了			
阿嘉・慶留間区の植栽工事 高木・低木・草花植栽	目　標	（　植栽工事　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	植栽工事の完了			

達成状況説明：地域の意見を取り入れたサインの整備工事を行い、15のサインを設置した。
座間味区においては土壌改良及びソテツ7本、芝を植栽し、景石の設置を実施した。
阿嘉区においては、ビロウ26本の植栽を実施した。
慶留間区においては、慶留間入口広場にて土壌改良、鹿除防風ネットの配置、及びアコウ1本、コバテイシ5本、フクギ3本、ケラマツツジ173本、ブッソウゲ264本、シャリンバイ本、ツワブキ105本、ソテツ8本、テリハクサトベラ71本、ハマゴウ72本の植栽を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
各区の植栽実施	目　標	（　）	（　植栽実施　）	（　植栽実施　）	（　）	（　）
	実　績		植栽実施	植栽実施		
H28年から阿嘉区でも観光協会、港にアンケート調査実施する。（満足度　H28年は阿嘉で50%）	目　標	（　）	（　満足度50%　）	（　満足度50%　）	（　）	（　）
	実　績		未実施	未実施		

進捗状況説明：各地区において植栽を実施した。
サインの設置場所と数量(阿佐7基・阿真5基)(阿嘉:2基)(慶留間:1基)
アンケート調査実施については、アンケートの作成が遅れ未実施となり目標が達成できなかった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光誘致と受入体制の整備のため国立公園である本村の自然を生かした魅力ある景観形成を促進するため、港周辺や、公園等の整備をおこなった。 ・本村は主要3島からなる島嶼村であり、3島（5地区）の自然景観に合致した取り組みが求められている。 ・植栽後の維持管理については、住民と協議していく必要がある。 阿嘉地区・慶留間地区においてのシカ対策が、住民からの一番懸念されているため、検討が必要である。 ・座間味島の整備が進み、事業の効果を検証する必要がある。	・今後は業者へ委託し維持管理を行っていくが、住民の要望を取り入れ、地域と連携をとるためにも協議が必要である。 ・シカ被害が多く見られるため、対策の施策を引き続き行う必要がある。 ・事業効果を検証するため、アンケートを実施していきたい。

今後の取り組み方針

今後は維持管理業務を業者へ委託し、さらなる景観促進に努める。
住民及び地域の組織や事業者と協議を行って維持管理をおこなっていく。
事業効果確認のため、アンケートの実施を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
30,941	30,941	24,752	6,189	0

座間味村 30,941千円 → 備品購入費 1,997千円 → 沖縄トヨタ自動車株式会社 1,997千円（フォークリフト購入）

座間味村 30,941千円 → 工事請負費 28,944千円 → 株式会社桃原農園 28,944千円（阿嘉・慶留間 植栽工事請負業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先の選定方法については備品購入、工事ともに指名競争入札を行っており妥当であると考える。 ・予算規模については不用額は1,059千円であり適正であったと考える。 ・費目・使途は精算時点で検査を実施し、必要なものであった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	ダイバーズ・エッグ・プロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章3-（2）-イ 市場特性に対応した誘客活動の展開
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成26年～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（1）

事業内容

ダイビング観光客誘客と若年層のダイバーを育てるため、閑散期に（冬場）トライアルプログラム実証調査事業（内容：体験ダイビング）としてダイバーのタマゴを育てその効果や調査を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a) 当初予算額	18,000	10,000	13,000		
	(b) 予算現額	18,000	10,000	13,000		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0		
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	18,000	10,000	13,000		
B. 執行済額		16,718	7,687	10,196		
うち交付金充当額		13,374	6,150	8,156		
次年度繰越額						
執行率（%）（B/A）		92.9%	76.9%	78.4%		

予算の状況の説明：不用額2,805千円については、目標数500名に達しなかったことによる委託料の残である。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
体験ダイビング　受入人数　500名	目　標	（500名）	（500名）	（　）	（　）
	実　績	247名	248名		
アンケート調査　500件	目　標	（500件）	（500件）	（　）	（　）
	実　績	247件	248件		
プロモーション活動 2回	目　標	（実施）	（実施）	（　）	（　）
	実　績	実施	実施		

進捗状況説明：10月より広報宣伝活動を実施し、予約数390名中248名の実施となり、目標数へは届かなかった。
アンケートについては、有効回答248名となり、また来たいと答えた方が100%、ライセンスを取りたいと答えた10～30代が70.3%と高かったことから、ダイバーの予備軍へダイビングの良さを知ってもらうきっかけとなった。
宿泊に繋げる事業内容を行うことで、1泊の参加者を調査したところ、目標100名に対して115名となり2泊以上のお客様と合わせると半数以上が宿泊しているという結果となり目標を達成した。座間味村ダイバーズエッグクラブ会員数も昨年度から100名増加し、合計1000名となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
体験ダイビング　受入人数　500名	目　標	（　）	（500名）	（500名）	（　）	（　）
	実　績		247名	248名		
アンケート調査の分析・フィードバック（1泊での参加者　100名）	目　標	（　）		（100名）	（　）	（　）
	実　績			115名		
座間味村ダイバーズエッグクラブ会員数800名	目　標	（　）	（800名）	（800名）	（　）	（　）
	実　績		900名	1,000名		

進捗状況説明：10月より広報宣伝活動を実施し、予約数390名中248名の実施となり、目標数へは届かなかった。
アンケートについては、有効回答248名となり、また来たいと答えた方が100%、ライセンスを取りたいと答えた10～30代が70.3%と高かったことから、ダイバーの予備軍へダイビングの良さを知ってもらうきっかけとなった。
宿泊に繋げる事業内容を行うことで、Cカードの取得及び村内事業者の質の向上を行うことで、消費額をあげる仕組みづくりを行うことで活性化を図る。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	ダイビング年齢が高齢化していることや、ダイビング客が落ち込んでいることから、ダイバーのタマゴを育て今後のダイビング産業の活性化を図る目的にて、実証調査を行った。 目標数の500名に達しなかったが、アンケート調査結果によると、昨年同様ダイビングに興味があるとの回答が95%で、ダイビングをしなかった理由としては「きっかけ」がなかったとの回答が多く、関心層への開拓ができたと推測される。一方で閑散期（冬季）実施のため寒くなると参加数に影響してると思われる。 目標数を達成し、誘客に繋げるため事業期間を見直し、運営面（申込受付、受入体制面、広報面、ターゲット層）での課題がある。	事業実施にあたって、十分な事業期間を設け、効果的な広報宣伝活動を行う必要がある。 また、ターゲット層を沖縄県内に絞っていたが、県外客を視野に入れた、より感動をあたえメモリアル感が残る施策や、宿泊へつなげ経済効果につながる仕組みを作り、情報発信の徹底に努めダイビング産業の活性化に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

平成28年度でこの事業は終了となるがこの結果を踏まえ、効果的な広報、募集等、今後に繋がるよう更なるダイビングの魅力を発信していく。 また、活性化を図るうえで、Cカードの取得へ繋げるため地元事業者および関係機関と閑散期の事業展開を検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,196	10,195	8,156	2,039	0

座間味村 10,196千円 → 委託料 10,196千円 → 株式会社　宣伝 10,196千円

委託業務・体験ダイビング　受入人数500名
・アンケート調査
・プロモーション活動
（ラジオ広報、フリーペーパー　1回、新聞広告2回、新聞折り込みチラシ約10万部、ポスター　1000部、チラシ5000部、）
・アンケート分析、実績報告等

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は当初予定の500名に達しなかった人数であり広報宣伝を含め適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	座間味村鮮魚美食事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ 農林水産業の振興
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24年～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)

事業内容

村内における漁獲物の付加価値向上と、地産地消の推進、また座間味島・阿嘉島の両鮮魚直売所間の連携強化と商品流通を促進するため漁協の取り組みを支援する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	22,481	6,166	14,961	4,642	5,764
	(b) 予算現額	22,481	6,166	14,961	4,642	5,764
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	―	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	22,481	6,166	14,961	4,642	5,764
B. 執行済額		21,783	5,848	13,415	2,265	3,249
うち交付金充当額		17,426	4,678	10,732	1,812	2,599
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		96.9%	94.8%	89.7%	48.8%	56.4%

予算の状況の説明

不用額2,515千円については賃金職員の１名雇用できなかったことによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
①地産地消の推進と直売所の強化 ・賃金職員2名	目　標	（2名）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1名			
②流通対策への取り組み ・大型コンテナボックス5台 ・吊り秤2台	目　標	（5台 2台）	（　）	（　）	（　）
	実　績	5台 2台			

達成状況説明

賃金職員については応募はあったが、応募者が村外在住者であったため住宅を確保することができず雇用するに至らず目標を達成できなかった。
流通対策としてマグロ・カジキなどの大型魚に対応するための大型コンテナや吊り秤が整備できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
鮮魚直売所の売り上げ　5,000,000円 ※26年度直売所売上　4,506,735円	目　標	（　）	（6,000,000）	（5,000,000）	（　）	（　）
	実　績		8,200,000	9,900,000		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

観光客のニーズ（地元食材、鮮度）に応えた商品の販売に力を入れたため、目標の2倍近くの売上があり目標を達成できた。

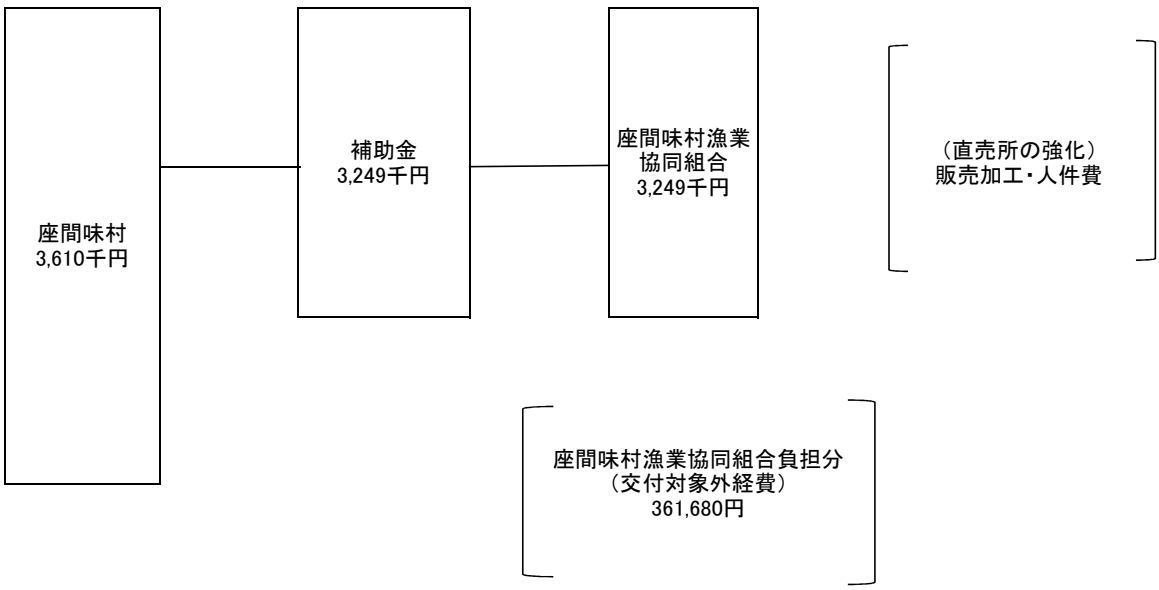
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	昨年度に続き、増加した観光客への対応のため土日にも窓口を開けていたため売り上げは大幅に目標値を上回ることが出来た。 また、大型コンテナを購入したことにより、マグロ・カジキなどの大型魚が鮮度を保った状態で出荷できるようになり、漁業者からの喜びの声が大きかった。	観光客が増加したことにより売り上げは大幅に伸びたが、今年度はさらに地元住民へ地産地消を促し、漁業従事者の意欲向上に寄与したい。 また、加工品については新メニューを考案しており、これらの開発・販売を行い更なる集客を目指す。 阿嘉の直売所についても雇用し早期開設に向け取り組んでいきたい。

今後の取り組み方針

水産物を使用した加工品の開発、村内における地産地消の推進など、漁業従事者の意欲向上のため支援を継続する。
また、継続して人材育成を行い直売所の強化を図り、上記の目的を達成できるよう取り組んでいきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,610	3,249	2,599	650	361



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業目的を達成するにあたり、村内においては当方人しかなく妥当である。 ・予算規模は賃金職員を雇えなかったことによる不要額のため適正であった。 ・受益者である座間味村漁業協同組合は、1割を負担しており、事業内容や他補助の負担割合から判断し、妥当である。 ・事業の使途については実績報告、額の確定時においての支出などの書類により確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	座間味村サンゴ（海の花）育成・植付事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-（12）-イ 農林水産業の振興
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24年～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（6）

事業内容

サンゴ礁海域の回復に向け、サンゴの種苗の生産と育成、海への植付を行う人材の育成及び施設運営の支援を行う。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,700	6,388	5,742	8,766	5,826
	(b) 予算現額	4,230	6,388	5,742	8,766	5,826
	(c) 増減額 (b-a)	470	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	4,230	6,388	5,742	8,766	5,826
B. 執行済額		3,731	5,771	5,202	5,364	5,168
うち交付金充当額		2,686	4,616	4,161	4,291	4,134
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		88.2%	90.3%	90.6%	61.2%	88.7%

予算の状況の説明：不用額の658千円は種苗センター運営費や人件費の実績減による補助金の残である。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
技術者育成　1名	目　標	（　1名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1名			
種苗センター運営　12か月	目　標	（　12か月　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	12か月			

達成状況説明：技術者育成については1名の職員を専属職員とし、サンゴ育成の専門家とする座間味村漁業協同組合の方針に対し適切な補助を行えた。
また、種苗センターの運営費についてもサンゴ育成に必要な運営費に対し、適切な補助を行えた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
種苗生産の拡大（2,500本）	目　標	（　）	（　2,000本　）	（　2,500本　）	（　）	（　）
	実　績		800本	1,000本		
サンゴが減少している海域への植付（3回）	目　標	（　）	（　）	（　3回　）	（　）	（　）
	実　績			3回		

進捗状況説明：種苗生産の拡大については、基盤への活着は問題なく行うことが出来たが、その後の成長段階で夏場の高水温のため成長できず死んでしまうサンゴが多く、目標値を超える生産拡大は出来なかった。
サンゴの植付に関しては、目標値の3回行うことができ、その後も定期的にモニタリングを行い順調に成長していることを確認している。

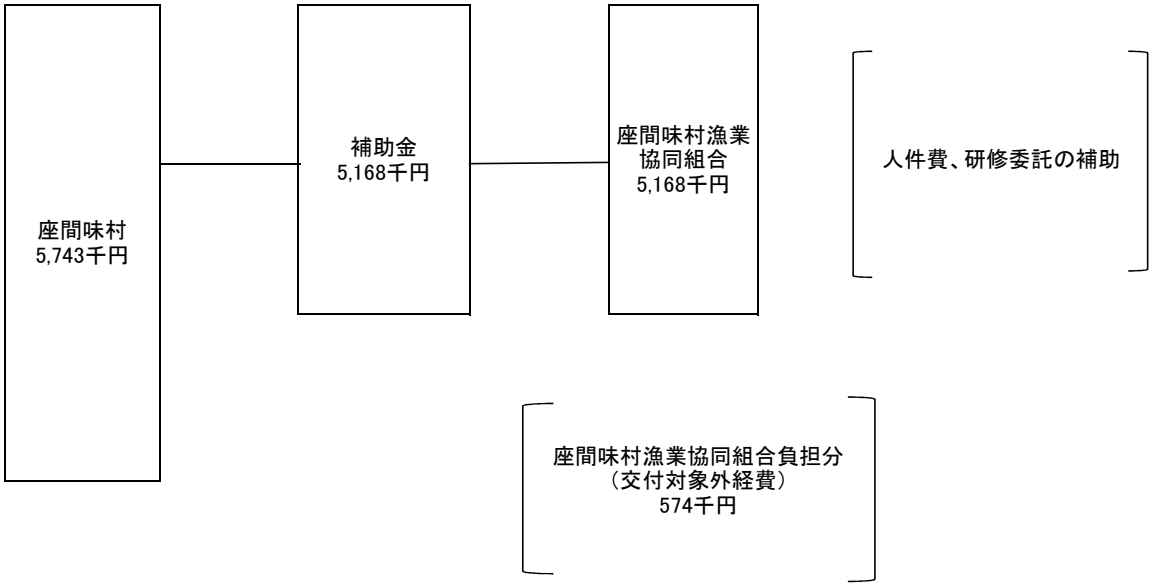
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	種苗の生産は2,500本を目標としていたが、1,000本と目標を大きく下回ってしまった。昨年度は夏場に台風が少なく、海水温が上昇し、種苗センター内の海水の温度も上昇してしまったためだと考えられる。センター内の海水は海からの汲み上げのため、自然環境に近いという利点もあるが、同時に自然条件に左右され安定した生産が難しいという欠点もある。	水温調節を可能にする施設整備や、高水温に強い種を生産するなどの生産面での工夫・改善が必要である。自然海水をそのまま利用する事は非常に利点が多いため引き続き利用し、安定的な生産を行えるように取り組みたい。

今後の取り組み方針

植付技術、管理技術の習得を図ることが出来たため、平成29年度以降は技術の更なる熟練と安定的な生産を目指していきたい。
また、植付本数を増やし事業目標であるサンゴが減少している海域の回復への寄与及び植付ダイビングのプログラム稼働に努めたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,743	5,168	4,134	1,034	574



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業目的を達成するにあたり、村内においては当方人しかなく妥当である。 ・予算規模は事業内容を執行するため適正であった。 ・受益者である座間味村漁業協同組合は、1割を負担しており、事業内容や他補助の負担割合から判断し、妥当である。 ・事業の使途については実績報告、額の確定時においての支出などの書類により確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	座間味村島ちゃび解消移動手段安定化対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第2章-3-(11)-ウ 離島における定住条件の整備
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24年～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9

事業内容

悪天候時の離島交通手段を確保するとともに、利用者の利便性向上に向け、船の欠航時やダイヤ変更時にチャーターヘリコプターを利用した場合、運賃の一部支援を行う。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,000	5,985	8,700	8,700	8,700
	(b) 予算現額	4,000	8,700	8,700	8,700	8,700
	(c) 増減額 (b-a)	2,000	2,715	0	0	0
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	4,000	8,700	8,700	8,700	8,700
B. 執行済額		3,660	6,060	5,460	4,140	3,600
うち交付金充当額		2,928	4,848	4,368	3,312	2,880
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		91.5%	69.7%	62.8%	47.6%	41.4%

予算の状況の説明：不用額が5,100千円の理由は、荒天の影響及び他市町村へのフライトが多かったことから、本村のフライト数が減少したためである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
村営船舶航路欠航時等によるヘリコプターチャーター支援の実施	目　標	（　支援　）	（　支援　）	（　支援　）	（　）
	実　績	支援	支援実施	支援実施	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：慶良間空港～那覇空港間のフライト数120回分の運賃一部補助を実施した（1フライト60,000円のうちその半額の30,000円を補助）。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
那覇空港～座間味村間フライト290回 H26年度実績182回	目　標	（　）	（290フライト）	（290フライト）	（290フライト）	（　）
	実　績		202フライト	202フライト	120フライト	
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：慶良間空港～那覇空港間のフライト数120回分の運賃一部補助を実施した。
荒天や他市町村とのチャーターの競合等があり目標回数を満たすことができなかった。

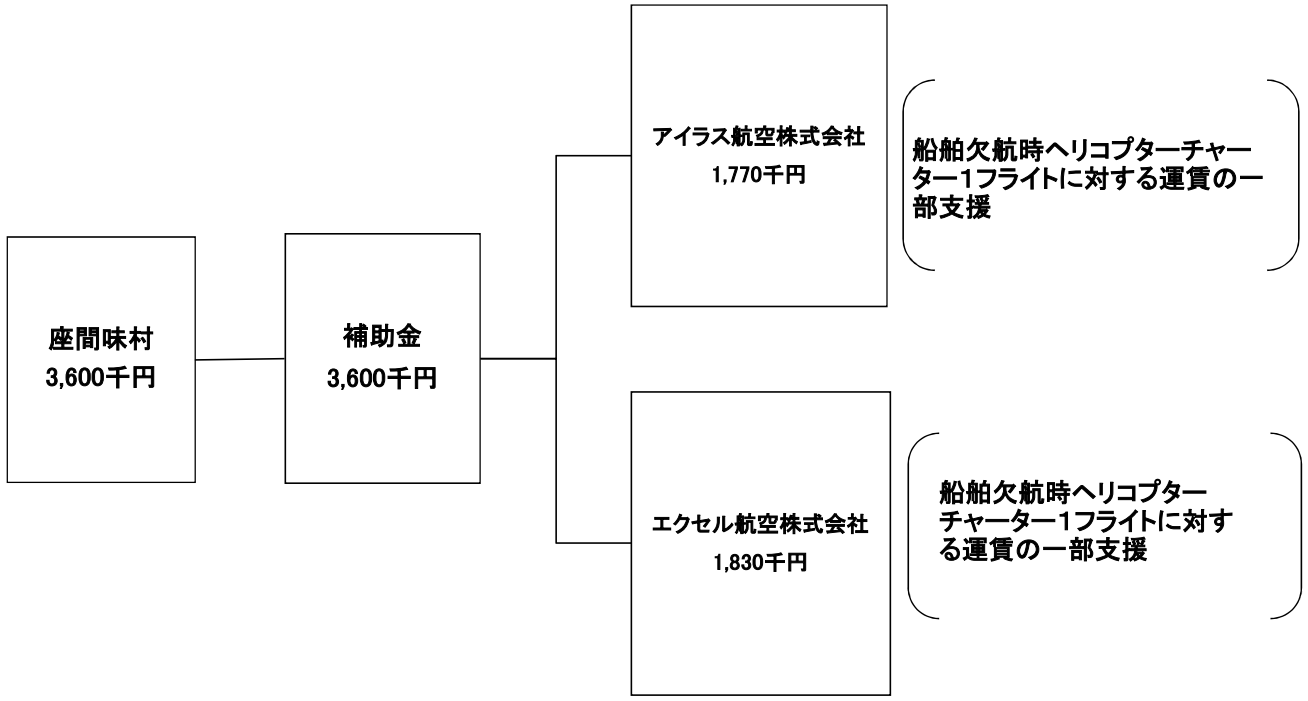
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・台風や荒天時の航路欠航時における補助であるため天候の影響等を考慮しながら事業を実施しなければならないが、他市町村でも同様の事業を行っている事からエクセル社の機材が足りず、必ずしも需要を満たす状況にはない。 ・航路欠航時の補助の実施について利用者に対して周知をいかにして行うかを検討していく必要がある。 ・慶良間空港離発着であり、座間味島からの利用者にとっては、島間の船舶移動と港用者増のため昨年度同様慶良間空港～阿嘉島間の移動手段の検討が必要	・座間味村のホームページやSNS等を利用して、航路欠航時の運賃一部補助の周知をいかに効率的に行うか検討する必要がある ・慶良間空港～阿嘉島間は、昨年度までは民間タクシーの１事業者が移動手段を担っていたが現在運航しておらず利便性の向上を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・座間味村観光協会等とも連携し、補助制度の効果的な周知方法はないのか検討を行い広報していく。
・慶良間空港～阿嘉島間の利便性の向上の為、予約の集約化について引き続き観光協会等と検討を進める。
・民間タクシーの撤退により移動手段の確保に向け関係機関と調整を進める必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,600	3,600	2,880	720	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・県内においてヘリコプターによる輸送業務を行う事業者は当事業者しかなく妥当である。 ・不用額が5,100円発生しているが悪天候の影響で運航を停止した経緯もあり、利用数の推移から予算規模は適正であると考える。 ・受益者負担は村の高速船の片道運賃となるよう設定れれていることから妥当である。 ・事業の使途については実績報告、額の確定時においての支出等の書類により確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	座間味村自動車航送運賃低減化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)ア 交通・生活コストの低減
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24年～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9

事業内容

離島住民の利便性向上及び高い交通コストの改善を図るため、高額である本島、座間味村間のフェリー車両航送に係る運賃の一部を支援する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,014	535	1,870	2,542	3,076
	(b) 予算現額	1,886	1,456	3,085	3,100	3,635
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 128	921	1,215	558	559
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,886	1,456	3,085	3,100	3,635
B. 執行済額		1,886	1,456	3,083	3,090	3,598
うち交付金充当額		1,508	1,164	2,466	2,472	2,878
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	99.9%	99.7%	99.0%

予算の状況の説明：当初385台程度の補助を予定していたが、利用率の向上により補助申請予想を上回っていたことから増額補正を行った。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
自動車航送運賃を低減するための支援の実施	目　標	（　支援の実施　）	（　支援の実施　）	（　支援の実施　）	（　　）
	実　績	支援の実施	支援の実施	支援の実施	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：目標台数385台を上回る501台の自動車航送運賃の低減支援を行った。
4月30台、5月48台、6月45台、7月42台、8月40台、9月31台、10月37台、11月52台、12月58台、1月31台、2月39台、3月48台

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（25年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
支援台数　385台(H26年度実績385台)	目　標	（　60　）	（　369　）	（　342　）	（　385　）	（　　）
	実　績		385	395	501	
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：目標台数を上回る501台の自動車航送運賃の低減を行った。
沖縄本島での移動手段の確保、または車検整備における自動車航送運賃低減化を図ることで、離島特有の経済的負担の軽減が図られた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	沖縄本島での交通手段の確保、車検整備などの経済的負担の軽減などを図ることができたが、車検整備における自動車航送については、申請者の名義のみとなっているので、法人名義等を今後、どうするかが問題となっている。	今後の経済的負担の軽減を事業者まで拡大するのか検討していく必要がある。

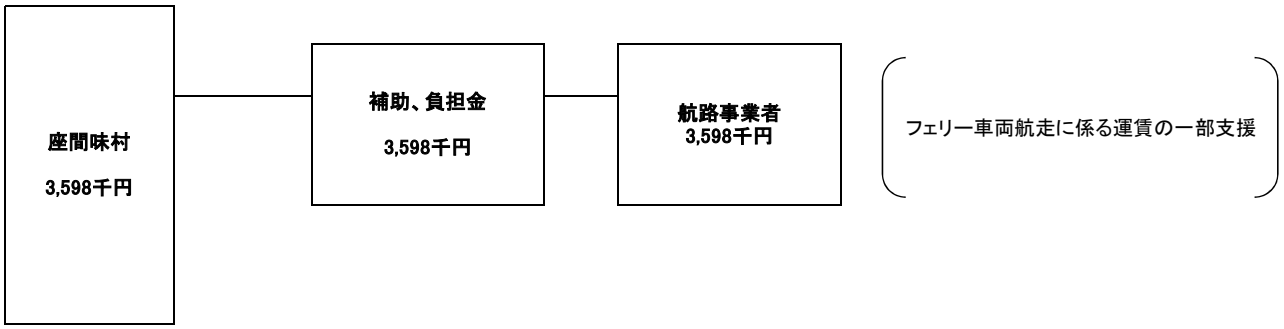
今後の取り組み方針

自動車航送運賃低減補助を事業者まで拡大するのかなど、要綱の改正等検討していく必要がある。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,598	3,598	2,878	720	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先については、航路事業者が1事業者しかないため妥当である。 ・予算規模は増額があったものの概ね妥当である。 ・受益者については、5割を負担し実施要綱どおりの負担割合であり、事業内容からも妥当だと考える。 ・座間味村事業者航送運賃低減化事業については実施要綱に定めた額を執行しているので妥当だと考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	座間味村海抜表示板等設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－（ウ） 観光客受入体制の整備
担当部課名	総務・福祉課	事業実施（予定）年度	平成27年～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－（2）
事業内容	災害発生時に、住民や地理に不慣れな観光客が迅速かつ安全に避難場所へ移動できるよう、住民、観光客の安心・安全を図るため、海抜表示板や低地から避難所に向けて避難誘導標識を設置する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,702	15,000			
	(b) 予算現額	5,702	15,000			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,702	15,000			
B. 執行済額		5,616	14,688			
うち交付金充当額		4,492	11,750			
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		98.5%	97.9%			
予算の状況の説明		不用額312千円は入札残によるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

		達成状況			
		28年度	29年度	30年度	31年度
海抜表示板等の設置150基	目　標	（150基）	（　）	（　）	（　）
	実　績	150基			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	電柱用78枚　壁貼付式31枚　自立（単柱）式29基　避難誘導板3基　ステッカー式9枚　合計　150基（箇所）の表示板の設置を完了した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
H27年度に作成した台帳に基づく海抜表示板等の設置完了	目　標	（　）	（設置完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		設置完了			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	平成27年度に作成した台帳に基づき海抜表示板等を150箇所に設置を完了した。					

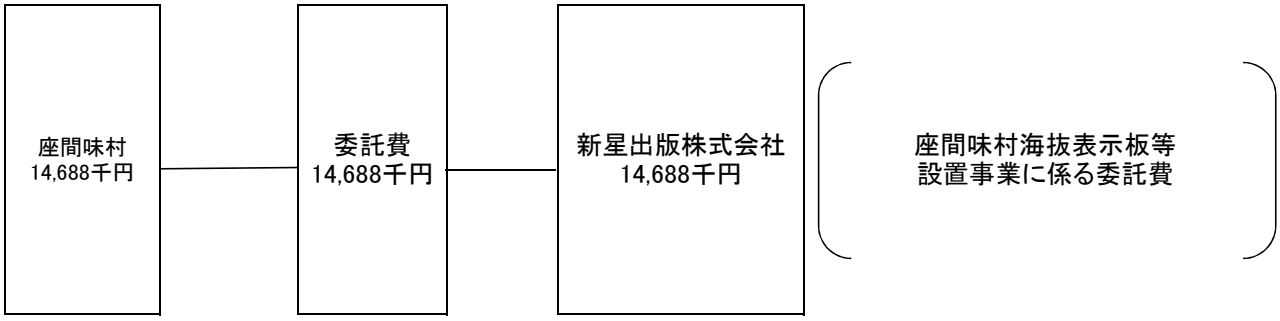
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	現在、国立公園にも指定されている観光地でありながら大きな災害が起きた際に本村を訪れている観光客への海抜表示や避難路の案内が無い状況にあった。 外国人観光客も多く訪れるようになり、外国人観光客にも対応できるような改善が必要である。	海抜表示板等を設置したことを周知するための広報や情報発信に積極的に取り組む必要がある。 表示板等を活用した避難訓練などを実施する必要がある。

今後の取り組み方針

設置した案内表示板を広報誌やホームページ等により広報し、広く周知していき避難訓練等にも活用できるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,688	14,688	11,750	2,938	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ・不用額は、入札残であるため、適正であると判断した。 ・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-④	座間味村離島食品・日用品輸送費等支援実証事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)ア 交通・生活コストの低減
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成28年～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9

事業内容

離島における割高な生活コストの低減を図るため、沖縄本島から座間味村へ輸送される食品や衣類、履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援を実施する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,519				
	(b) 予算現額	3,519				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	3,519				
B. 執行済額		3,414				
うち交付金充当額		2,731				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		97.0%				

予算の状況の説明：不用額の105千円は輸送実績が当初予測より下回ったことによるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
航路事業者（座間味村）へ対象品目に係る輸送費を支援	目　標	（　支援　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	支援			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：村内登録事業者等への補助を行った。（座間味島：5店舗、阿嘉島：3店舗）
4月270,423円、5月252,272円、6月315,178円、7月434,145円、8月480,457円、9月311,199円、10月272,104円、11月290,864円、12月243,009円、1月184,887円、2月183,428円、3月175,881円

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（　年度）
村内登録事業者：8店舗（座間味島5、阿嘉島3）	目　標	（　）	（座間味島5 阿嘉島3）	（　）	（　）	（　）
	実　績		座間味島5 阿嘉島3			
1ヶ月あたり証拠書類（船積申込書）530件	目　標	（　）	（530件）	（　）	（　）	（　）
	実　績		589件			

進捗状況説明：村内登録事業者8店舗への対象品目に係る輸送費の補助を行った。（座間味島：5店舗、阿嘉島：3店舗）
輸送費補助を行うことで、離島特有の割高な生活コストの低減が図られた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	登録事業者の店舗において、多くの品目の価格を低減すると、1品目あたりの低減率が低く、価格低減の実感があまり感じられないなどの問題がある。	住民が特に安くなってほしいと思う品目を中心に低減することで価格低減率を高めるなど、登録事業者の理解や協力のもとで住民のニーズにあわせた商品の価格低減が図られるよう、情報共有や相互理解を深める必要がある。

今後の取り組み方針

住民のニーズに合わせた商品価格の低減が図られるよう、登録事業者との情報共有や相互理解を深め、住民のニーズに合った価格低減を検討していく必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,414	3,414	2,731	683	0

座間味村 3,414千円 → 補助・負担金 3,414千円 → 航路事業者 3,414千円

（食品・日用品等の輸送費の補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先については、航路事業者が1事業者しかないため妥当である。 予算規模は現額があったものの概ね妥当である。 受益者との負担関係については、本事業の目的からも妥当だと考える。 本島との価格差を縮小し、離島における定住条件の整備を目的としているため妥当だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑤	多用途住宅整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)ーイ 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成27年～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9-(1)

事業内容

本村の振興に不可欠なALTや各種団体職員等を安定的に受け入れるため生活の基盤となる住宅を整備する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	11,350	130,463			
	(b) 予算現額	11,350	130,463			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	―				
	A. 計 (b+d)	11,350	130,463			
B. 執行済額		11,070	123,563			
うち交付金充当額		8,856	98,850			
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		97.5%	94.7%			
予算の状況の説明		不用額の6,900千円は入札残によるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
磁気探査の実施	目　標	（　実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	実施			
多用途住宅建設 RC構造　延べ面積265㎡	目　標	（RC造 265㎡）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	RC造 265.2㎡			

達成状況説明：建築工事を実施したことにより多用途住宅についての事業目標は達成できた。
2階建てコンクリート造住宅の建築床面積265.20㎡

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
多用途住宅の完成	目　標	（　　）	（完成）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		完成			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：2階建てコンクリート造住宅の建築（床面積265.20㎡　建築面積143.44㎡）工事を完了し、住宅が完成したため目標を達成することができた。

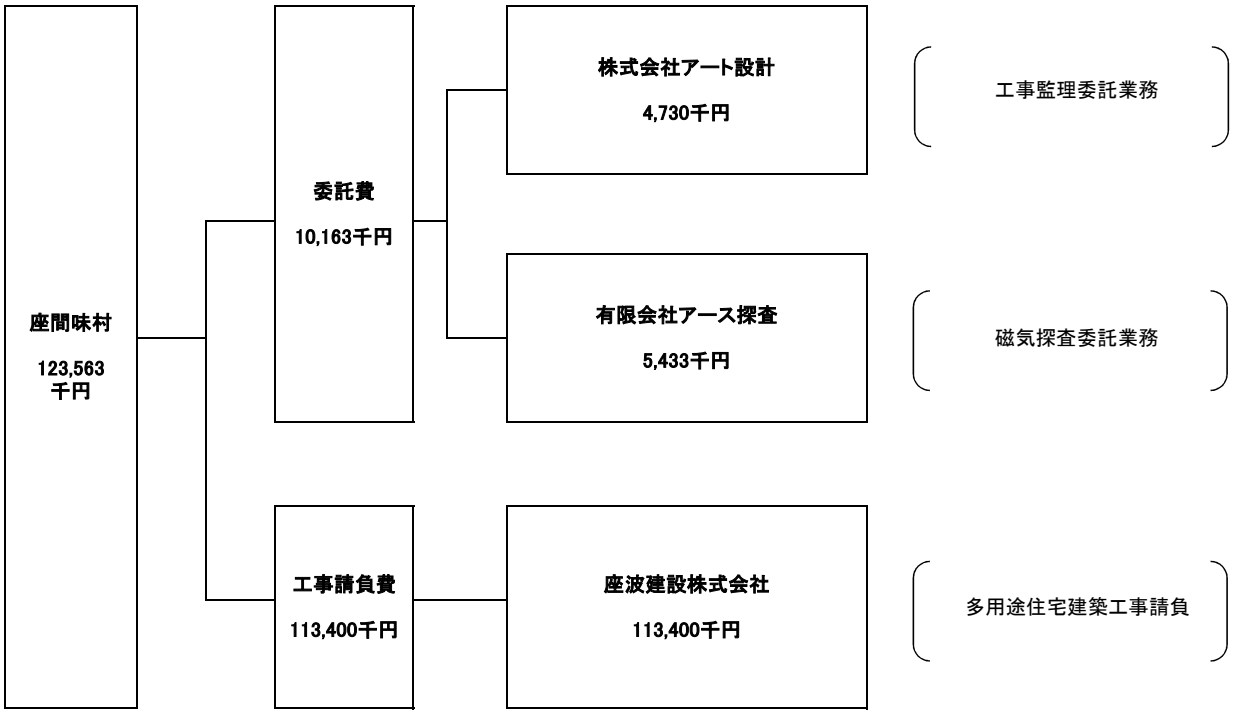
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	現在、座間味村には村営住宅が64戸、民間アパートが22室あるが、村営住宅は常に待機待ちの状態である。 民間アパートの間取りは1Kと狭く家賃も高額であり、更に民間アパートも工事請負業者や観光従事者のUターン、Iターンの若者でほぼ満室の状態である。 これまでALT、CIRを招聘した際、住宅環境の整備の遅れによる不満の声が多く上がっていた。	整備した多用途住宅の適正な維持・管理をすることが必要である。 今後の入居予定者の確保や計画を作成する必要がある。

今後の取り組み方針

今回整備をした多用途住宅を活用し村内への安定的な人材確保を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
123,563	123,563	98,850	24,713	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・指名競争入札により業者選定を行っているため妥当である。 ・予算規模は作業の実施規模を想定して行っており妥当である。 ・費目・使途については精算段階で検査を実施しており目的に即し、必要なものであった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	座間味村外来植物討伐事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)ーア
					生物多様性の保持
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成24年～32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-10-(1)

事業内容

座間味村らしい景観の保全や観光地としての安全性確保のため、村内に自生する外来種（モクマオウ・ギンネム等）の抑制を図る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	18,900	21,214	28,620	22,897	9,854
	(b)予算現額	18,900	36,183	28,620	22,897	9,854
	(c)増減額(b-a)	0	14,969	0	0	0
	(d)繰越額	―				
	A. 計(b+d)	18,900	36,183	28,620	22,897	9,854
B. 執行済額		18,867	35,962	28,134	22,680	9,666
うち交付金充当額		15,093	28,769	22,507	18,144	7,732
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		99.8%	99.4%	98.3%	99.1%	98.1%

予算の状況の説明：不用額の188千円については入札残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
委託事業の実施（座間味地区、阿嘉・慶留間地区予定）	目　標	（委託事業の実施）	（委託事業の実施）	（　）	（　）
	実　績	委託事業の完了	委託事業の完了		
6月～2月、1月平均18人体制	目　標	（24人）	（18人）	（　）	（　）
	実　績	24人	18人		

達成状況説明：委託事業を実施し山間部に入り込んだ場所での討伐事業を実施した。
2地区において1170人使用（延べ）月平均180人（延べ）であり10日間の平均作業で18人の活用ができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
外来植物の討伐（村内一円）それぞれの地区において討伐本数年間500本以上	目　標	（　）	（600本）	（500本）	（500本）	（　）
	実　績		517本	897本	500本	
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・山間部に自生するモクマオウについて27年度より実施してる薬剤使用については継続中であり効果等についてはしばらく様子見が必要である。
・繁殖力が強く、平野部にいたっての抑制は当面の間、景観への配慮を行いつつ継続を行う必要がある。

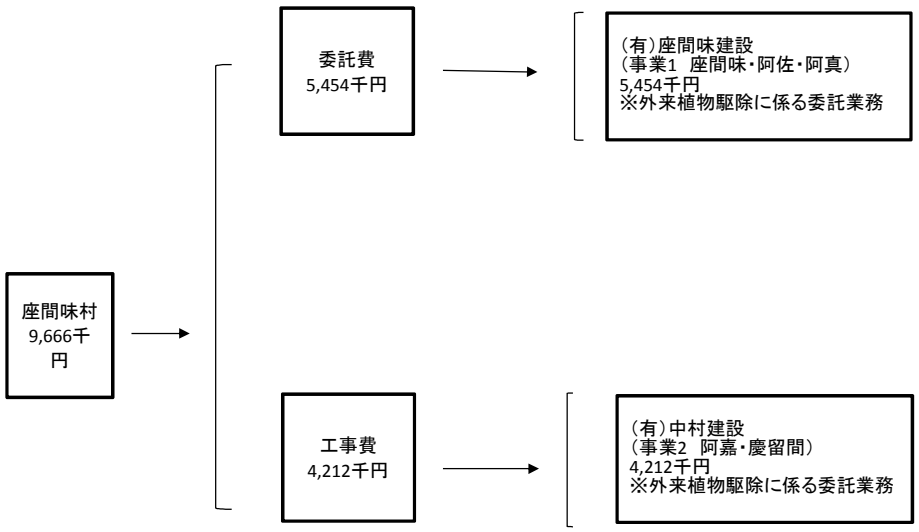
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	自然環境保全と観光地である本村の景観保持のため。村内至るところで野生化した外来種「モクマオ・ギンネム」繁殖の抑制を図るためH28年度においても討伐事業を実施。 自生力の強い外来種への対応は限界があると思われるが、平野部（観光地・道路）においての継続は座間味村らしい景観の保全のためにも必要とされる。	討伐の実施について、今後も主に薬剤による対応を中心に行う。 討伐の実施が難しい場所への対応は見送りより事業効果が期待できる場所の選定を行う必要がある。

今後の取り組み方針

H29年度においても、事業を継続し薬剤使用による山間部への作業を行うほか、平野部においての討伐も実施し、抑制を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,666	7,732	7,732	1,934	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	指名競争入札により業者選定を行っているため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は作業の実施規模を想定して行っており妥当である。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途については精算段階で検査を実施しており目的に即し、必要なものであった。

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	電子黒板等整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（3）－ウ 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成27～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容

将来を担う児童生徒の人材育成及び学力・情報活用能力等の向上を図るため、児童生徒の興味関心を引き出し集中力を高める分かりやすい授業環境を整えるため各小中学校に電子黒板等を整備する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	11,731	14,547			
	(b) 予算現額	11,731	14,547			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	－	－			
	A. 計 (b+d)	11,731	14,547			
B. 執行済額		11,522	14,455			
うち交付金充当額		9,217	11,563			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		98.2%	99.4%			
予算の状況の説明		不用額92千円については入札執行残によるものである。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
中学校7台 （座間味中3台） （阿嘉中2台） （慶留間中2台）	目　標	（座間味中3台 阿嘉中2台 慶留間中2台）	（　）	（　）	（　）
	実　績	座間味中3台 阿嘉中2台 慶留間中2台			
電子教科書の導入	目　標	（電子教科書導入）	（　）	（　）	（　）
	実　績	電子教科書導入			

達成状況説明

デジタル教科書を主要4教科分、電子黒板計7台（座間味校3台、阿嘉校2台、慶留間校2台）を備品一式と購入し、各校に整備した。
デジタル教科書は6月1日、電子黒板は7月28日とやや遅れたが、概ね予定通りの設置となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（32年度）
・全国学力・学習状況調査において全国平均との差　中学校3年生　平均　+3.7ポイント（現状維持）	目　標	（　）	（－3ポイント以内）	（69.3点）	（　）	（5ポイントアップ）
	実　績		－0.2ポイント 全国平均63.3点 本村平均63.1点	55.8点		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

導入した器機の効果的な活用を図るため、昨年度設置した小学校用の電子黒板と併せて、実際に操作を行う先生向けに、各校において設置業者を交えての使用方法・活用方法の説明を行った。
目標値69．3点（平成29年4月に実施した全国学力・学習状況テストの全国平均65.6点＋3.7ポイント）に対し、本村平均は55．8点であり、80%の達成率となり、目標達成には至らなかった。
その要因として、使用する教員の電子黒板に関する知識や、何がどの程度出来るのか等、教員、生徒間にも個人差があり、うまく活用できていない背景があることが考えられる。

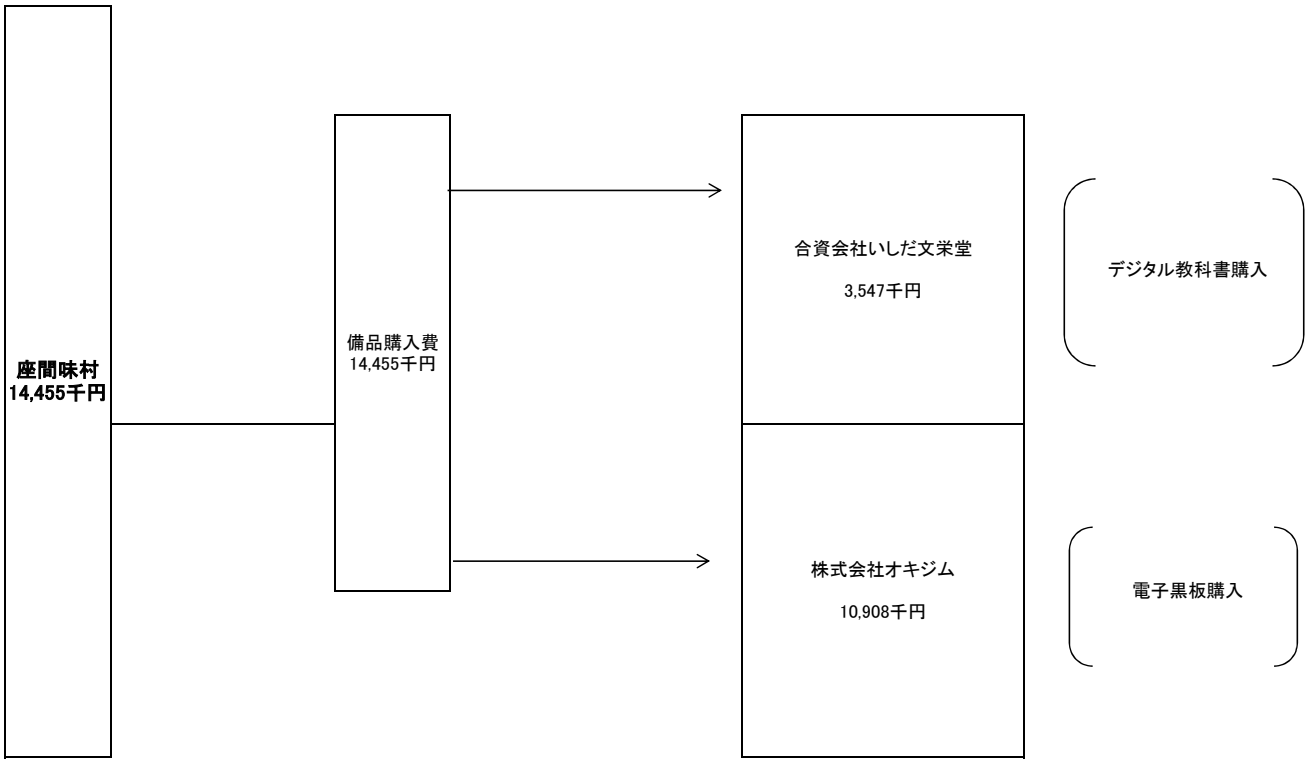
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・座間味中学校3台、阿嘉中学校、慶留間中学校ともに2台ずつ電子黒板を設置し、各中学校一式ずつデジタル教科書を設置した。 ・当初予定していた導入時期からやや遅れたが、概ね予定通りの設置となった。	・使用する教員や、生徒間に個人差があり、電子黒板に関する使用方法や、活用方法等が分からない教員もおり、目標達成には至らなかったと背景がある。 ・当初設置時にのみしか説明を行っておらず、参加出来なかった教員もいるため年に数回、再度業者を招いての説明会等を行い、新年度赴任してきた教員に引継げる様な体制を構築する必要がある。

今後の取り組み方針

各校において、電子黒板のより良い活用方法について各校教諭間にて意見交換の場を設ける。設置業者を交えての活用方法の検討を行う。
他都道府県・市町村の活用方法の事例等を調べて取り入れていく等、生徒達に確かな学力を育成することができるよう改善していく。
その結果として、全国学力・学習状況調査に反映されていくようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,455	14,455	11,563	2,892	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・電子黒板は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ・デジタル教科書の購入に関しては、随意契約であるが、教科書販売店の証明書通り座間味村の販売店はいしだ文栄堂に指定されているため妥当であったと考えている。 ・不用額は事業費の1%以内であり、適正な規模であった。 ・費目、使途については、積算段階で各校の希望する教科書を指定し、電子黒板についても目的に即し、必要であると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	座間味村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-②	教育環境充実事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－（3）－ウ 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	平成28～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）

事業内容	児童生徒を対象とする家庭学習支援のため、学校施設に設置されているWeb会議システムを用いたオンライン双方向事業を行う「村営学習塾」を開設する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,814				
	(b) 予算現額	7,814				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	7,814				
	B. 執行済額	5,969				
	うち交付金充当額	4,775				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		76.4%				

予算の状況の説明：不用額1,845千円については授業キャンセル等による残額である。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
オンライン授業の実施 賃金職員　4名 講師派遣　2名	目　標	（賃金職員4名 講師派遣2名）	（　）	（　）	（　）
	実　績	賃金職員6名 講師派遣2名			
備品購入 PC　4台 プリンタ　4台	目　標	（PC4台 プリンタ4台）	（　）	（　）	（　）
	実　績	PC4台 プリンタ2台			

達成状況説明：
座間味島１拠点、阿嘉・慶留間島１拠点にて平成28年9月～平成29年3月まで計273授業を実施した。
支援員（賃金職員）は各拠点に3名ずつ配置し、シフト制で対応した。
また、授業に使用するノートパソコン及びプリンターもそれぞれ購入した。
プリンターの購入に関しては事業当初は4台を想定していたが、事業執行にあたり2台で対応可能となったため活動目標は未達成となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（33年度）
H27年度全国学力・学習状況調査結果 小学校　国語・算数　全国平均63.9点 本村平均61.4点＝△2.5 小学校　平成28年度 全国平均との差を2.5ポイント改善する（平均との差を0を目標とする）	目　標	（　）	（64.2点）	（　）	（　）	（レベルの高い高校進学を目指す）
	実　績		70.5点			
H27年度全国学力・学習状況調査結果 中学校　国語・数学　全国平均61.9点 本村平均65.6点＝3.7 H28年度　全国平均との差を現状維持する	目　標	（　）	（69.3点）	（　）	（　）	（　）
	実　績		55.8点			
中学校 英語 卒業までに英検3級以上の取得を目指す	目　標	（　）	（7分の7）	（　）	（　）	（　）
	実　績		7分の5			

進捗状況説明：
当初予定していた実施期間より大幅に遅れて、９月１日より授業を開始した。そのため、予定していた授業日数を行うことができなかった。
支援員（賃金職員）は各拠点に3名ずつ配置し、シフト制で対応した。
小学校の目標に関して、目標値６４．２点（平成29年４月に実施した全国学力・学習状況テストの全国平均点）に対し、本村平均は７０．５点となり、全国平均よりプラス６．３ポイント上回り、100％達成した。
中学校の目標に関しては、目標値６９．３点（平成29年４月に実施した全国学力・学習状況テストの全国平均65.6点＋3.7ポイント）に対し、本村平均は５５．８点であり、80％の達成率となり、目標達成には至らなかった。
中学生が目標達成出来なかった要因としては、対象生徒全12名中、４名しか受講しなかったことが要因と考えられる。
また、中学校英語に関しては、英語検定３級以上に7名が受け、５名が合格した。

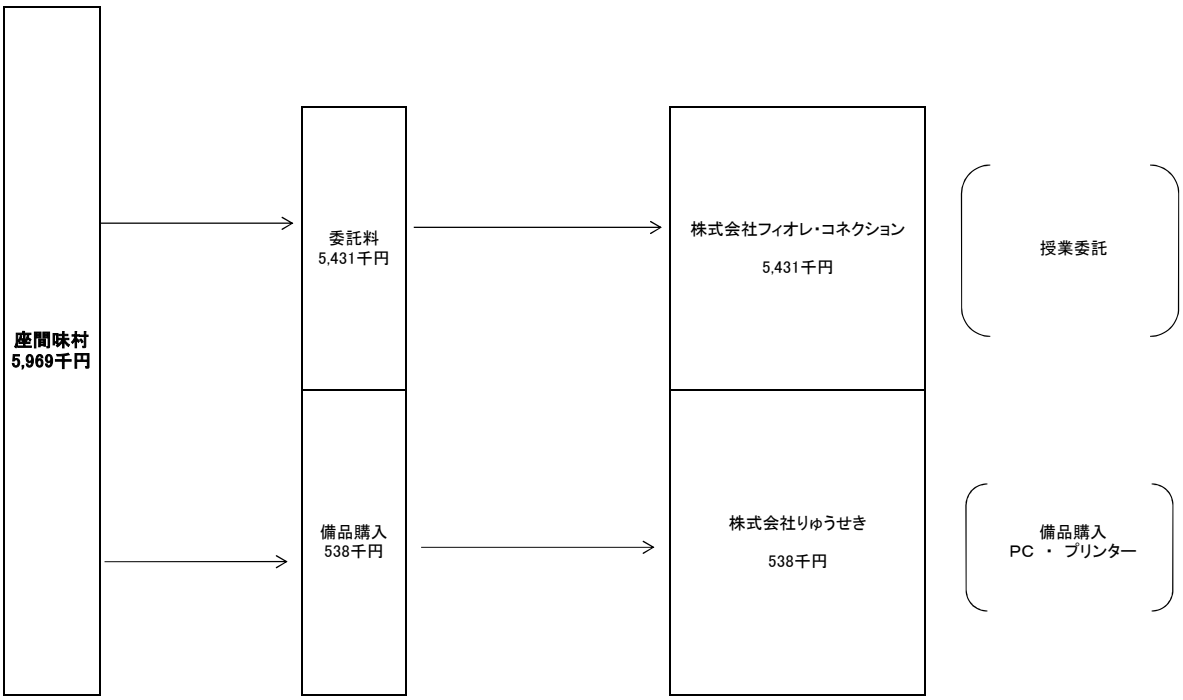
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	座間味島1拠点、阿嘉・慶留間島に1拠点を配備し、それぞれの場所と東京の会場、渡嘉敷島の会場の計4拠点をつなぎ、遠隔にて授業を行った。 台風で、当初予定していた日程とは変更になったが、普段、モニター越しでしか顔を合わせない東大生の講師を各島に派遣し、対面での授業・交流会を行う他に進路指導や勉強における悩み相談等を行った。これにより講師と生徒が触れ合う時間がつくれ、東大生がより身近な存在と感じることができた。	出来るだけ早く授業を開始し、夏休み等の大型連休にも対応できるようにする。 直前キャンセルによる不要な支出を減らすためにも支援員と受講生徒（保護者）との連絡を密に行うようにする。

今後の取り組み方針

次年度は早期着手し、授業日数を増やせるようにする。また、より多くの児童・生徒が参加するよう、事業内容の案内や広報、声かけを行い、全体の学力の向上を図る。
今年度は支援員と保護者の連絡が不十分で、直前でのキャンセルが度々生じた。連絡がなく不参加の生徒がいた場合の対策案を考える必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,969	5,969	4,775	1,194	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・授業実施委託はプロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ・備品の購入に関しては、3社相見積もりによる随意契約であるが、地方自治法施行令第167条の2別表第5に記載されているとおり80万円以下の備品購入のため妥当であったと考えている。 ・不用額は直前での授業キャンセル等もあったため不要額が発生しているが、適正な規模であった。 ・費目、使途については、授業実施目的に即し、必要であると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	